

## 平成 25 年度の山部会の活動成果報告

### 1. 山部会の目標とテーマ（課題）

山部会の 3 ヶ年の活動テーマを以下に示す。

（3 ヶ年の目標）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく
- WGの中で森づくりガイドラインの策定とモデル林によるモニタリングの試行的実施を行う。
- WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行

<テーマ>

<解決手法>

山村再生担い手づくり

森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。

山村ミーティング

山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。  
※今年度はWGとしては活動せず他団体の情報共有に留める。

森づくりガイドライン

流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。

木づかいガイドライン

矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

### 2. 今年度の活動実績

今年度の活動実績を以下に示す。全 7 回のWGを実施し、各回でテーマを決めて行った。

活動内容	日時	場所
第 9 回 WG (根羽) 21 名参加	6 月 29 日 (土) 9:00-12:00	・グリーンハウス森沢 ・根羽村森林組合
第 10 回 WG (根羽) 12 名参加	7 月 20 日 (土) 9:00-12:00	・ネバーランドファームイン ・根羽村老人福祉センター しゃくなげ
第 11 回 WG (豊田) 15 名参加	8 月 17 日 (土) 9:00-12:00	・足助里山ユースホステル ・豊田市役所足助支所 2 階 第 2 会議室
第 12 回 WG (豊田) 15 名参加	9 月 14 日 (土) 9:00-12:00	・旭高原元気村 研究室
第 13 回 WG (豊田) 17 名参加	10 月 21 日 (月) 15:00-17:00	・豊田氏職員会館 3F 第 1 部室
第 14 回 WG (恵那) 17 名参加	11 月 9 日 (土) 9:30-12:30	・奥矢作レクリエーションセンター 大会議室
第 15 回 WG (恵那) 28 名参加	12 月 11 日 (水) 15:00-17:00	・恵那市 上矢作振興事務所 基幹集落センター2F 中会議室

※参加人数は事務局含む

### 3. 各テーマの活動成果と課題

今年度に取り扱った主な活動成果と課題について、山部会のテーマに沿って以下にまとめる。

<テーマ>	<今年度の活動>	<活動の成果>
<p><b>山村再生担い手づくり</b></p> <p>森林の適切な管理は山村再生が重要。そのためまずは人づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第9回WG (今年度の進め方)</li> <li>・ 第10回WG (取材方法・マニュアルについて)</li> <li>・ 第11回WG (取材先の共有と取材者の調整)</li> <li>・ 第12回WG (取材先の共有と取材者の募集について)</li> <li>・ 第13回WG (取材経過の情報共有)</li> <li>・ 第14回WG (取材状況の共有)</li> <li>・ 第15回WG (取材の中間報告)</li> </ul>	<p><b>[成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山村で活動する団体への取材が行えた。</li> <li>・ 全体会議に向け、最終の編集作業を行う必要があるものの、事例集としてのとりまとめが実施できた。</li> <li>・ 取材メンバーとして、川・海のメンバーの参加が一部だがみられ連携のきっかけづくりが行えた。</li> </ul>
<p><b>山村ミーティング</b></p>	<p>第9回WG (今年度の進め方)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度WG化はせず、関連する他団体の活動などあれば情報共有を行った。</li> </ul>
<p><b>森づくりガイドライン</b></p> <p>流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第9回WG (今年度の進め方)</li> <li>・ 第13回WG (矢作川流域の森づくりの作成)</li> <li>・ 第14回WG (矢作川流域の森づくりの作成)</li> <li>・ 第15回WG (地域毎の森づくりの紹介)</li> </ul>	<p><b>[成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間での情報共有が行われた。</li> </ul>
<p><b>木づかいガイドライン</b></p> <p>矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第9回WG (今年度の進め方、皆を木の世界に誘うためのブレインストーミング)</li> <li>・ 第10回WG (木づかい推進のブレークスルーのためのブレークストーミング)</li> <li>・ 第11回WG (木づかい推進のブレークスルーのためのブレークストーミング)</li> <li>・ 第12回WG (木づかい推進のテーマの絞り込み)</li> <li>・ 第13回WG (着地点・決めのポイント出し)</li> <li>・ 第14回WG (着地点・決めのポイント出し)</li> <li>・ 第15回WG (ガイドラインイメージ創出)</li> </ul>	<p><b>[成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木づかいガイドラインの作成目的について共有化ができ、メンバーそれぞれにとっての木への想いについて意見交換ができた。</li> <li>・ 作成に向けてWGの場でブレインストーミングを行い、活発な意見交換ができた。</li> </ul>

## (1) 山村再生担い手づくり

### ■今年度活動により分かったこと

《先進活動団体の生の声》地域の苦悩や喜びや課題に触れ、情報を共有する。

- 実際に活動する団体の生の声を取材できるため、苦労話や活動に伴う葛藤を聞いた。例えば以下のような観点で山村再生の担い手支援につながる情報を収集できた。
  - 実体験に基づいたアドバイス（Iターンで地域に入ってくる方に向けた心得など）
  - 地域の課題解決手法。（空き家対策など）



取材時の巻割りの実演



取材先団体の活動の様子

《新たな交流の芽生え》新しい交流が生まれることが次の取組につながることになる。

- 地域の盛り上げを矢作川流域圏との交流により実現したい団体もあった。矢作川流域圏懇談会の中でツアーを組んでほしいとの声も出た。
- 海や川のカテゴリーの人が山の団体取材することで新しい交流が生まれた。

### ■運営方針に見る活動進捗状況の評価

#### 〈評価のまとめ〉

- ・ 取材者として、海部会や川部会に所属する懇談会メンバーの参加もみられ、連携という面でも一定の成果が出た。一方で、参加者そのものの数が伸び悩んだ点で課題がある。
- ・ アウトプットイメージとして、地域部会にて編集集中の事例集を提示した。今後、内容の充実を図るため、全体会議には事例集（案）といったかたちで参加者に披露したい。
- ・ 今回の取材で得た活動団体とのネットワークをいかしつつ、流域圏懇談会の活動につながっていければよい。

### ■今後の課題

- 事例集を通じた出会い・ネットワークを活用した流域圏活性化に向けた仕組みづくりが必要。
- 全体会議に向けた事例集の編集作業が必要。

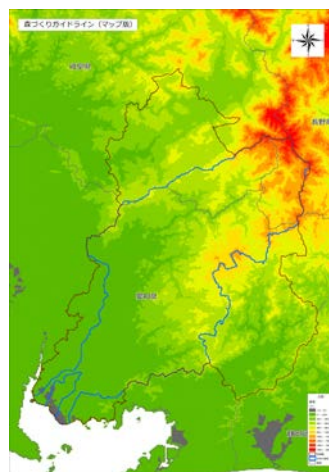
## (2) 森づくりガイドライン

### ■今年度活動により分かったこと

《実態把握に資する情報収集》矢作川流域圏の森の全体像を理解するための情報収集をする。

- 森づくりガイドラインの作成の前に、森づくりの実態をリストアップする材料を収集。川部会、海部会、流域圏の住民が一目見て、矢作川流域圏の森の全体像が理解できる資料の作成をはじめた。現時点で以下の資料収集・整理を行うことができた。

- 地形図や植生図などの現況図の作成
- 地区別森林の基礎データの収集
- 各地区でアピールしたい森づくりの事例収集
- 市境・県境を超えた連携による森づくりの事例  
(※今後収集していくことの周知)



地形図の作成

《WGメンバーの拡張》流域圏を構成する行政へ趣旨説明と作成目標の情報共有が図られた。

- 矢作川流域圏を構成する県市村へ趣旨の説明と作成の目標について情報の共有が図られた。
  - 国：林野庁中部森林管理局
  - 県：愛知県農林水産部 農林基盤担当局林務課、環境部水地盤環境課、豊田加茂農林水産事務所林務課（出先事務所）、西三河農林水産事務所林務課（出先事務所）／岐阜県林政部森林整備課／長野県林務部森林政策課
  - その他：矢作川水源基金

### ■運営方針に見る活動進捗状況の評価

#### 〈評価のまとめ〉

- ・ 実態把握としての「矢作川流域圏の森づくり」の作成が開始され、一部資料の収集・事例紹介が行われた。
- ・ 今後、ガイドラインを作成していくためのメンバーとして、国・県・団体へ作成の主旨および協力の要請を行うことができた。

### ■今後の課題

- ガイドラインの作成にむけた各種資料収集が多岐にわたるため、情報収集の仕組みづくりが必要。

### (3) 木づかいガイドライン

#### ■今年度活動により分かったこと

##### 《多くの意見が出た「木材利用の推進」について》WGにてブレインストーミングで実施。

- 矢作川流域圏の木材利用を3県の住民・字御者・行政が一体となって推進するきっかけづくりについてブレインストーミングにて行った。ブレインストーミングの観点は以下の通り。
  - ▶ 「森や木を好きになったきっかけや原体験、感動した場面、その感動を知ってもらうにはどうしたらよいか」について
  - ▶ 「森や木がこんな風になればいいのに」と感じることや「そのために取り組む内容」について
  - ▶ 「森や木を前にして、“これではいけないのでは”、“もっとこうなればなあ”、“こんな風になればいいのに”と思うこと」について
  - ▶ 「どのようなガイドラインを作っていくか」について
  - ▶ 「ライフステージアタック表を用いた“木づかいガイドラインの着地点とイメージの共有”」について



木材の多様さについての紹介



ブレインストーミングの様子



WGでの意見交換の様子

##### 《ガイドラインへの掲載に必要な多様な情報》求められる新たなパートナー

- ガイドラインに盛り込むべき内容は多様でその情報量も多いことが分かった。特に市民目線での情報が木づかいの推進につながるため、今後は新たなパートナーを集うことになった。
- 今後の新たなパートナーは以下の通り。
  - ▶ 林業普及指導員／モニター的市民／素人山主／工務店／建築士／木工品展／木工クラフトマン／ナイス等木材流通業者／道の駅／アウトレット商品取扱店

#### ■運営方針に見る活動進捗状況の評価

##### 〈評価のまとめ〉

- ・ 限られた時間の中でブレインストーミングによる意見収集を行い、多様なメンバーから多くの意見収集が行えた。また、内容の構成や着地点についての議論や意見収集も行っており、作成の材料が収集できた。
- ・ 現時点でのWGメンバーにとどまることなく、新たなパートナーの募集等も視野に入れたメンバー増員の企画が行われた。

#### ■今後の課題

- 多様な情報をガイドラインとして取りまとめていく際、メンバー間の役割分担や作業分担について共有しておくことが必要。






## 4. 山部会全体及び他部会との連携における成果と課題

### ■運営方針に見る活動進捗状況の評価



#### 〈評価のまとめ〉

- ・ 4つのWGのうち、今年度着手した3つのWGについて各作業部会の活動報告と活動に対する意見交換が行われており、WGも一定の進捗があった。
- ・ メンバーも参加者の総数は増加傾向にあるものの、市民の参加が必ずしも多くないことは課題としてとらえられる。

#### 〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 3つのテーマについて、**それぞれ作業WGを立ち上げ、内容の検討を行い、全体WG（現在の山部会WG）にて、情報共有を図る。**  ○  
（「運営方針（1）全体WGと個別作業WGによる運営」より）
- ・ 当初3ヶ年ではコアとなる検討メンバーは決定したが、コアメンバーだけでは策定が難しいことから、**作業メンバーの確保と活動を通じて作業メンバーの拡大を図る。**  △  
（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有」より）
- ・ 実際の作業工程や役割分担について、メンバー間で共有した上で、事例集、ガイドラインの策定作業へ移行する。  △  
（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有」より）
- ・ **事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。**  ○  
（「運営方針（3）できる取組みから実行する」より）
- ・ 事例集やガイドラインを活用した取組みは、山部会構成メンバーが**できることから試行的に行っていく。**  ×

#### 〈他部会との連携方針からみる取り組み状況〉

- ・ 事例集のヒアリングを山川海メンバーで行うことで、流域圏一体化のきっかけにする。（「運営方針 他部会との連携方針」より）  △
- ・ できれば、市民会議の活動として位置づけ、市民中心で活動展開を行っていく。（「運営方針「他部会との連携方針」より）  ×

### ■連携上の課題

- 作成した事例集やガイドラインを効果的に周知していく場や仕組みづくりが必要。
- 他部会との連携は一部みられたが、活動の輪そのものを他部界へ広げるには至らなかった。